

投資事業評価調書（継続：再々評価）

部課室名	河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 佐々木良作 (河川開発係長 渡辺弘昌)	内線	4408 (4433)
事業種目	ダム事業	事業採択年度	H2	現計画	再評価時点
事業名	金出地ダム建設事業	着工年度	H4	総事業費	- 億円 19.0億円
		再評価年度	H11	内用地補償費	- 億円 5.4億円
事業区間	二級河川千種川水系鞍居川			完成予定年度	- H18
所在地	赤穂郡上郡町金出地			進捗率 (内用補進捗率)	- % (- %) 29% (100%)
				残事業費	- 億円
事業の目的 (H11再評価時点)			事業内容 (H11再評価時点)		
河川改修と併せて金出地ダムにより鞍居川沿川の洪水被害を防除し、河川維持用水や既得灌漑用水等の補給を行うとともに、播磨科学公園都市に対する日量11,000m ³ の新規水道用水の取水を可能にする。			重力式コンクリート ・ダム高 69.0 m ・堤体積 19.2 万m ³ ・総貯水量 630.0 万m ³ 〔負担割合 国：0.3885 県：0.3885 利水者：0.223〕		
社会経済情勢の変化	平成14年11月、企業庁は、播磨科学公園都市の日最大給水量を現行の31,400m ³ から22,000m ³ に変更し、金出地ダムを水源としないことを播磨高原広域事務組合（水道事業者）に通知した。 同事務組合は、事業評価手続きを経て、平成15年1月に厚生労働省所管の水道水源開発施設整備事業（金出地ダム）の中止を決定し、県にその旨を通知してきた。 この利水撤退により、県は金出地ダムの計画を一から見直すことが必要となった。				
進捗状況	【事業の経緯】 ・昭和51年 9月 台風17号により千種川流域に大水害 ・昭和61年 4月 金出地ダムを多目的ダムとして実施計画調査を開始（補助事業に採択） 事業目的： 洪水調節 流水の正常な機能の維持 水道用水 ・平成 2年 4月 金出地ダム建設事業を開始（補助事業に採択） ・平成 5年 2月 補償基準の調印（金出地ダム対策協議会） ・同 年 8月 環境影響評価書を環境影響評価技術審査会に説明 ・同 年 12月 県知事から、貴重種の移植、管理状況を毎年報告すること等の条件を付して「概ね妥当」との審査意見が出された ・平成15年 1月 共同事業者である播磨高原広域事務組合が、金出地ダムによる水道開発の中止を決定し、県にその旨を通知 ・平成14年度末 この時点で、用地買収は完了（38万m ² ） 付替道路・工用道路は7,509mのうち5,036mを施工済み ・平成15年 2月 千種川委員会に設置した鞍居川部会で、計画見直しを開始				
評価視点	評価結果の説明				
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 鞍居川は流下能力が全川にわたり低く、昭和49年の台風8号で26戸、昭和51年の台風17号で427戸が浸水するなど、沿川は過去に幾度も被害を受けており、抜本的な治水対策が必要である。 共同事業者から撤退の通知を受けて、治水目的を担う金出地ダム計画も見直しの必要が生じ、これまで実施してきた道路工事を現在休止している。 千種川水系についての河川整備基本方針と河川整備計画の策定に向けて、既に「千種川委員会」が設置されており、この中に、学識者や地域住民からなる「鞍居川部会」を平成15年2月に設け、ここで鞍居川の治水対策について、金出地ダムの有無を含め一から検討してきた。 今後、鞍居川部会の検討結果を踏まえて県としての結論を出し、鞍居川の治水対策を実施していく必要がある。 				
再 の 々 結 評 果 価	調査継続	左 の 理 由	金出地ダム建設事業については、鞍居川の新たな治水計画を策定中であるため、それに必要な調査について継続実施する。		